

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実践につなげている。 みどり会議、カンファレンスや朝礼を通して、法人の理念やGH運営の基本方針を確認し、サービス提供を実施している	法人の理念は掲示してある。さらにグループホームの独自理念、グループホーム基本方針などが整備され、日々のケアに迷うときは理念に照らして行動している。職員採用時にしっかり説明している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	日常的に交流している。 地域においては消防避難訓練を実施したり、小学校の音楽会・保育園の運動会、地域住民や区長、民生委員を招いての夏祭り(納涼祭)を実施したり、地域との交流を図っている	現コロナ禍ではなかなか交流が難しい。 昨年の夏千曲荘の先生を招いてオンラインの研修会を開催した。この時区長さん、民生委員などに参加いただいている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	活かしている。 区の区長・民生委員・消防部長などに運営に関して会議を開催して、現状報告・問題などを提起してお互い意見交換をし、地域貢献を図っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	活かしている。 運営推進会議は市高齢者介護課・地域包括支援センター・区長・民生委員・家族などの参加で会議を開催して、現状分析・課題などを報告して、アドバイスをいただき実践に活かしている。	会議ができないので、2か月に1回文書にてホームの様子をお知らせしている。ホーム内の写真なども添付されている。会議の時のようになかなか返事は返してもらえないのが現状である。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くように取り組んでいる。	協力関係を築くように取り組んでいる。申請書についても郵送に頼らず、窓口に行き、コミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。また、包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し、可能な限り対応している。	市高齢者介護課や地域包括支援センターには、あえて出向いて相談などしていたが、最近ではコロナの影響もあり電話ですますことが多い。包括からは入所の申し込みなどが主である。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。 2か月に一度、法人として全体研修があり、職員は身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。みどり内でも研修を行っている	マニュアルは作成されており、法人の研修会で2か月に1回は全体で研修している。グループホームみどりの会議でも研修しており、職員の理解を高めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	取り組んでいる。 2か月に一度、法人として全体研修があり、職員の理解ができており、常日頃の対応についても注意を払っている。みどり内でも研修を行い周知している		

グループホーム材木町みどり1F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	活用出来るように支援している。 この地域は社協が窓口になっており、独居のお年寄りが将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、また本人が希望した場合などは司法書士などに関わっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。 入所時・解約時・改定時などには十分な説明を行っている。特に金銭的なことについては(介護保険料金改訂など)、トラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に反映させている。 常時進言できる体制を作っています。また、運営推進会議に利用者家族参加、家族参加による納涼祭やクリスマス会を開催して職員・家族同士の話し合いの場を設けている。その中で家族の意見をくみあげている。	運営推進会議などで意見を聞いて運営に反映してきた経過があるが、現在は機会が減っている。 家族の来所時などに意見を聞くようにしている。 心の便りシートを送って意見を聞くようにしている。 コロナが終息したら家族会を開催したいと思っている。	家族などへのお知らせ文書の中に職員の異動など身近な情報もわかりやすくお知らせできればいいかと思えます。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。 月1回の合同ミ-ティング・各グル-プホームのミ-ティングにおいて、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。	職場のミーティングで、意見の吸い上げに努めている。割合ラフな感じで意見を出せているようである。意見は管理者に届いており、業務改善に関する意見については、常日頃気楽に提案されている。	意欲の高い職員が多いと思うので職場研修などでさらに建設的な意見の収集に努められることを希望します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。 年2回の評価表を実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を育てる取り組みをしている。 法人内で2か月に1回の研修会を設けている。また介護技術向上のための研修会もある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	取り組みをしている。 行政主催の集まりなどに参加したり、職種に応じた研修会や勉強会に参加して、サービスの質向上を図っている。		

グループホーム材木町みどり1F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めている。 家族・本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などについてお聞きし、要望に沿うよう介護計画やケアに活かしている。施設で楽しく、穏やかに生活できるように交流機会を確保している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	関係づくりに努めている。 入所する前にご家族からの要望などをお聞きしている。また、入所後も定期的に連絡を取り、関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。 入所時にご本人及びご家族からの要望などお聞きし、介護計画の作成やサービス提供に努めている。また、他の方法もあることなども含め提案している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	関係を築いている。 職員は利用者本人のADLに応じて、お茶配り・配膳・食器拭き・洗濯物たたみなど一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	築いている。 面会や電話などでご本人の状況などお話しさせていただいている。また、外出の機会や外泊の機会を確保していただいています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めている。 近所の方が見えたり、家族の面会など、いついらしでも受け入れており、面会規制はしていないが、新型コロナウイルス感染拡大のため、現在は面会を制限している。	現在面会規制をしているため、会いにくい状態ではあるが、窓越しに近所の人、友人も面会している。最近はビニールシートを下げて室内で対応できるようになった。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	支援に努めている。 レクリエーションや行事では、それぞれの方が出来る事を提案して実施している。利用者同士の交流では職員が仲介したり、声掛けをして間に入り支援している。また、ボランティアさんが来所されるときには、全員が参加できるように声掛けしている。		

グループホーム材木町みどり1F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談や支援に努めている。 退所して、同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。また、ご自宅に戻られても関係機関やご家族、ご本人と連絡調整など行っている。			
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。入所時に家族・本人の希望をお聞きして記録表に記入している。また、好きなこと・嫌いなこと、また趣味なども把握して、一人一人の暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。	入所時に聞き取った記録を保管している。又特に重点的に考慮すべき点については、職員室の壁に張り出して全員が理解できるように配慮している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方などについては入所時に聞き取りを行っている。			
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。			
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	作成している 本人や家族の希望などをお聞きしてプランに反映している。必要な関係機関とも話し合い意見をお聞きしている。また、GH会議などでも検討して、反映している。	心のシートなどを参考にして、家族との電話、インシデントの時のやりとりを参考にして計画を作成している。必要に応じてリハビリ担当、福祉用具、病院、診療所、訪看など関係者と話して計画に落とし込んでいる。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。 業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノットで情報の共有を図っているし、必要があれば介護計画の見直しを行っている。			
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組んでいる。 家族や利用者様の相談に応じ、要望や要求に対応している。			

グループホーム材木町みどり1F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している。 地域とのかかわりを大切に、小学校の運動会や音楽会への参加など行っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している。 主治医は法人内の診療所になっており、容易に診てもらえる。定期以外の臨時的受診は家族に様態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して、即対応されている。他医院の受診もある。	基本的には法人内の診療所の医師が主治医であるが、他の医院、整形、眼科などは家族に受診付き添いをしてもらっている。ホーム内の常勤看護師が通常の健康チェックに携わり診療所と連携している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。 職場内の看護師、法人内の訪問看護と連携を図り、常日頃相談して、アドバイスを受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行っている。 病院に入院した際にはサマリ-にて、こちらの情報を提供して、入院中においては、担当者会議などに参加させてもらい、常に情報を共有できるように努めている。そして早期に退院できるように相談もしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。 入所時に急変した場合、重度化した場合、この施設で可能な医療・介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んでいただくようにしている。	入所時には重度化した時の延命処置について聞き取りをして確認している。又施設として対応可能な処置についても説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実践力を身に付けている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	協力体制を築いている。 スプリンクラ-、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。また、自治会の役員や消防団も参加している。	9月に避難訓練をしている。消防署が入り避難誘導について指導を受けている。火災、震災の消防計画は提出済み。土砂崩れ、水害対策についてはマニュアルが作成されている。二階からの脱出避難手段の検討をしている。備蓄食料二日分確保あり。	周囲に駐車場を含む広い敷地を利点と考え避難誘導についてさらに検討を重ねられることを望みます。備蓄の水、食料の定期点検をされるといいかと思います。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。 言葉かけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。	特に言葉かけには注意を払っており個人情報にかかわることなど大きな声で話さないよう気を付けている。排泄、入浴時肌の露出に特に注意をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている。 職員サイドで決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢ができるような質問をするなど心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望にそって支援している。 起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごしていただくよう支援している。実際に遅い食事時間の方や早い食事時間の方もおられる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している。 家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいく。2か月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応じている。その方によっては、地域の理髪店に行かれる方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	支援している。 好き嫌いを把握し、適した食形態を提案している。また、それぞれの能力に応じて役割分担している。お茶くみや食器拭き、簡単な調理などやっていたいしている。	食事は取り寄せの冷凍食品対応である。刻み、ミキサー食は4~5人。味噌汁、ごはん、麺類、パンなど好みに使い分けている。おやつなどは手作りである。好き嫌いの対応あり。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。 食事摂取量や水分摂取量については毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。献立については専門の業者が作成している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	している。毎食後口腔ケアを行っており、就寝の際には義歯の洗浄を行っている		

グループホーム材木町みどり1F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	支援を行っている。常に排泄チェック表をつけており、その方にあった排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるように努力している。実際に要介護5の方をリハビリパンツにてトイレを使用し、2人で介助をし排泄を行っている方がおられました	ほとんどの人がリハビリパンツ、パット使用であり、トイレ誘導して排泄介助をしている。排泄記録はつけられている。薬使用で排泄の人もありコントロールしている。できる人には自分でパットを換えてもらっている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる。 排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたり、便秘にならないようにしている。便秘傾向の人には主治医に薬を処方していただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々に沿った支援をしている。現在曜日での入浴になっていますが、入りたくない方は別の時間帯や別の日に入って頂いています。朝一番が良い方は、そのように対処しています。	基本は曜日対応で週2回の入浴になっている。希望又は事情で入浴日変更にもなるが柔軟に対応している。特浴があり約半分の人が特浴利用である。大半の人が午前入浴になっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している。 利用者それぞれの生活パターンを職員は理解しており、休みたい時などは、自室がホールのソファなどで休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確認に努めている。 それぞれの利用者が服用されている薬については、薬性を称津診療所からいただいております。職員は把握している。服薬に関しては看護師が管理している。飲むまでの確認は常に行っている。状態変化時は主治医に相談し支持を仰いでいます。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援している。 入所時やその後のカンファレンスや日々のお話の中で合った役割、趣味嗜好を把握している。その方の能力にあった役割分担をしており、本人の希望に沿って献立を変更したり、戸外活動を行ったり、好きなことをして頂いて気分転換を図っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	支援している。 小学校や保育園の行事に参加したり、外食で回転ずしや一般の食堂に出かけたり、百貨店やスーパーにでかけ、買い物気分を味わったりして気分転換を図っている。	コロナ禍で自由に外出支援ができないのが現状であるが、上田公園あたりにドライブしたりして気分転換を図っている。道路に面しているため、小学生の登下校の列を窓越しに眺めて利用者は楽しんでいる。	

グループホーム材木町みどり1F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じ、家族との話し合いでわずかな金額を預かったりして、本人の希望・要望に沿って対応している。また、本人自身が所持されている方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。 入居者が家族や知人などに連絡したい時は電話にて対応している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 となく施設内であると、季節感に疎くなってしまう傾向があるので、月ごとのカレンダーづくりや季節に応じての外出を行い、また、毎日ラジオ体操を行い、リハビリ体操、口腔体操、歩行運動行ったりして居心地良く生活できるように工夫している。	利用者の写真や手芸品、カレンダーなどがきれいに展示されており、心和む空間づくりへの工夫を感じる。消毒も適時され清潔で明るい共同空間となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫している。 ホ・ル・居室では気の合った者同士でテレビを見たり、みんなでゲームをしたり、また、一人で新聞を読んだり、思い思いに過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、人によっては遺影や仏壇を居室に持参されている。本人の希望を添えるようにしている。	それぞれの今までの生活に近いよう、配置されているものも様々だが、心落ち着く居室づくりに注意が払われている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が安易に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。また、居室やトイレの場所などが分からない方のために案内板を設置して、一人で行動できるようにしている。		